早稲田商学第 441・442 合併号
2 0 1 5 年 3 月

消 息

片山覚先生のご定年退職にあたって

片山覚先生におかれましては，2012年 9 月 2 日に満70歳，古稀を迎えられ，2013年 3 月末日をもって御定年により早稲田大学を退職されました。先生は1961年に早稲田大学第一商学部に御入学以来，早稲田大学でまさに半世紀以上の時を過ごされました。1969年に早稲田大学商学部の助手に着任されてからは，44年にわたり母校である早稲田大学をこよなく愛し，その発展のために貢献なさってきました。

片山先生は，非常に学生思いの先生であり，学生に心から愛された先生でありました。早稲田大学在職44年間は，まさに学生に寄り添われ，学生とともに歩んでこられた44年といえるでしょう。御定年とはいえ，そのような片山先生の早稲田大学御退職は非常に残念で，私自身も片山先生に学んだ一学生として，寂しく，心にぽっかりと穴が空いたようであります。

片山先生の最終講義「早稲田大学での時を振り返って」は，2013年 2 月 2 日に11号館501教室で行われました。その最終講義では，大教室である501教室が多くの片山ゼミ OB・OG で埋め尽くされました。

片山先生を語るうえで欠かせないのが，片山ファミリー OB 会（片山ゼミナール OB 会）であります。「ファミリー」と名が付いているだけに，毎年行われる OB 会には，OB・OG 御自身のみならずその御家族が多く参加されています。まさに，単なるゼミナール OB 会を超えたひとつの「ファミリー」であるわけです。

ゼミ生同士で結婚された方も多く，また，多くのゼミ生が片山先生御夫婦の仲人で結婚されたと聞いております。噂によると，先生御夫婦に仲人をして頂いた仲間を「片山先生仲人友の会」の会員と呼ぶそうです。ゼミ生の結婚式へ片山先生が御出席されることも多く，どんなに遠くても足を運ばれ，ある月には，その月だけで 5 組もの結婚式に御出席されるというお話を伺い，びっくりしたことを覚えています。

早稲田大学商学部のある先生が海外へサバティカルに行かれている折に，その先生のゼミ生と片山先生のゼミ生との結婚式が行われる，という時がありました。片山先生のゼミ生のお相手の方の先生は海外に居られ，結婚式に出席することができないわけです。その折に片山先生は，その先生が出席できないと，お相手の方が寂しい思いをするだろうから，その先生の代わりに２人分のスピーチをするんだ，とおっしゃられておりました。その優しいお気遣いに胸を打たれたものです。

多くの商学部生にとって思い出深いのは，長年，片山先生の講義において課題として出されてきた日経メモノート（財務メモノート）ではないでしょうか。日経メモノート(1)とは，「毎日，日本経済新聞を読み，自分が気づいたことをコメントする」というもので，具体的には，前半部分では日本経済新聞のなかから個々人が選んだ記事の要旨・ポイントを書き，後半部分ではその記事を読んで気づいたことを楽しみながらメモする，というものです。楽しみながら，ということが重要で，後半部分では，たとえば戦略等の目的・理由・影響についての検討や今後の動向の予想にはじまり，発見したこと，重要だと思ったこと，分からなかったこと，疑問に思ったこと，その他気が付いたことはなんでも書いていきます。ポイントは，それらに関連して日常の生活のなかで気づいたことも，積極的にメモに取り込むという点で，「いつも知的好奇心のアンテナを高く，広く！」「あふれるメモノートスピリットで，日常の生活を生き生きとしたものに！」という片山先生のメッセージが込められた課題です。

日経メモノートは毎学期，何度も提出させておられたそうですが，最初は慣れない日経新聞を読み，それをまとめ，自分なりの意見を書くことに戸惑っていた学生も，回を重ねるにつれて，徐々に慣れ，レポートでの自分の意見が増え，最後の頃には，すっかりとはまってしまい，楽しそうにメモを作成してくるんだよ，という事を，片山先生はいつも嬉しそうにお話されておりました。

私が驚いたのは，そのレポート全てについて，片山先生がコメントを入れて戻されていたということです。聞くところによると，100人分以上を超える日経メモノートを毎回，宅急便で御自宅に送り，週末にかけて読み，コメントを入れ，それを次の週には返却されていたそうです。

学生も真剣にやっているから，それに応えてあげないとね，といつもおっしゃられて

おりました。日経メモノートは何度も提出させているわけですから，半期の間に１回あたり100人分以上を超える日経メモノートを何度も読み，コメントを入れられているということです。並大抵の労力ではなかったと思われますが，先生は大変だとは一言もおっしゃらずに，むしろ楽しそうにされていたのを覚えています。片山先生の「日経メモノートスピリット」を身に着け，商学部から多くの学生が社会に飛び立っていったことでしょう。

片山先生は，非常に奥様思いでもあります。幸いなことにこれまで，先生とお話をさせて頂く機会を多く頂いてきましたが，そこで先生から伺ってきましたお話のうち半分くらいは，奥様についてのお話であったと記憶しております。片山ファミリー OB 会にはいつも，奥様も御出席されております。奥様もまた，片山先生とともに長年，学生に寄り添われ，学生とともに歩んでこられたわけです。

片山ファミリー OB 会では，先生の還暦を記念して，還暦記念集「思い出」が出版されています。そのようなお二人へのメッセージが，「思い出」のまえがきにみられます。以下に引用させて頂きたく存じます。

「いつも OB 会でも100名を超える卒業生が集う会がどれだけあると思いますか。早稲田にも数多くの OB 会等がありますが，結束力はナンバー１といえるでしょう。それは，「名は体を表す」を「片山ファミリー OB 会」はまさに実践しているからでしょう。そして，これからもますます「ファミリーの絆」は深まっていくに違いありません。……これはいつの時代でも学生とのつきあいを大切になさってくれる，先生のスタンスに由来するものなのでしょう。忘れてならないのは，昔も今も変わらない，奥様との仲むつまじさが若さの秘訣なはずです。……是非とも先生にはいつまでもお元気で。またこれからもご指導をお願いする次第であります。

早稲田大学商学部
片山覚ゼミナール OB 会
（片山ファミリー OB 会）[(2)]」

片山覚先生は，2013年３月末日をもって御定年により早稲田大学を御退職されましたが，これからも片山ファミリーOB会の「お父さん」であることに変わりはありません。これからもお元気で御活躍され，私どもを御導き頂けますよう，御願い申し上げます。長い間，ありがとうございました。

注(1) 日経メモノートについては，片山覚他．2009「入門会計学―財務諸表を読むためのエッセンス（専門基礎ライブラリー）」実教出版．11頁を参照。

(2) 早稲田大学商学部片山ゼミナールOB会（片山ファミリーOB会）．2002「片山覚先生 還暦記念集 思い出 Eternal memory」創成社． ii 頁より引用。